

ろう者も一緒に楽しめる映画、
ろう者がろう者自身を撮るドキュメンタリー映画
そして
ろう者の視点で創る映画「デフ・ムービー」
とは、どんなものなのでしょう。。

映画
編



情報アクセシビリティ・フォーラム 映像エリア 東京・秋葉原 UDXシアター（秋葉原UDX 4階）



11月22日（金）16:00～18:00

「小さな下町・さくらの詩」（90分、日本手話、日本語字幕）

2001年 脚本・監督/大館信広

昭和25年、製作所に勤めるろう者の工員、田村勝は、当時の世間の障害に対する理解の無さに悩まされ、憤りを感じる。そんな勝がろう運動家の講演会で、同じろう者の墨田さくらと出会う。勝はさくらとの楽しい日々を過ごす一方で、権利意識に目覚めていき、様々な壁にぶつかりながらも、ろう協会の創立に奮起する。東京・下町のろう者の人情を詳細に描いたヒューマンドラマです。日本のデフ・ムービー「聾映画」を牽引する大館信広監督の初期作品になります。

11月23日（土）16:00～18:00

「舟を編む」（133分、音声日本語、日本語字幕、音声ガイド）

2013年 脚本/三浦しをん・監督/石井裕也

2012年本屋大賞で第一位に輝いた、三浦しをんの著作『舟を編む』が映画化されたもので、ある出版社で辞書編集の仕事に出会う、不器用で誠実な馬蹄を描いたドラマです。住友商事のバリアフリー映画取組により、聴覚障害者向けの日本語字幕、視覚障害者向けの音声ガイドがつけられています。耳のきこえない人も、目の見えない人も、一緒に楽しめる映画を本格的な映画館で楽しむチャンスです。



(C)2013「舟を編む」製作委員会

11月23日（土）19:00～21:00

「生命（いのち）のことづけ_(37分)」「音のない3. 11_(23分)」「紡ぐ TUMUGU_(19分)」

監督 早瀬憲太郎

監督 今村彩子

監督 谷進一

障害者は日常生活にどのような不安を抱えているのでしょうか。その不安が現実的なものとなったのは東日本大震災です。障害者の死亡率が健常者の2倍以上であったという事実、そして音声が届かないことによる生命の危機など、障害者の被災状況をドキュメントした作品「生命のことづけ」と「音のない3. 11」はともにろう者が監督した作品です。ろう者がろう者自身を撮るドキュメンタリー映画はどのようなものなのでしょう。「紡ぐ TUMUGU」は盲ろう者の一日の生活をドキュメントした作品で、第8回さがの聴覚障害者映像祭（2012年）で優秀賞に輝きました。東京では初公開となります。



監督 深川勝三（ろう者）

11月24日（日）16:00～18:00

「たき火」（108分、日本手話、日本語字幕）

2013年（1966年撮影開始） 監督：深川勝三

昭和30年代に「ろうあ者への理解と再認識を世間に示したい」と、世界に先駆けて8ミリフィルムの劇場映画作りに取組んだ「睦（むつみ）聾映画演劇研究会」がありました。そのリーダー深川勝三（ろう者）監督の遺作となった未編集のフィルムが50年の歳月を経て編集されました。ろう者の視点で撮る「デフ・ムービー」とは何かを考えるに貴重な作品です。また、手話が普及し始めたばかりの昭和40年代のろう者の生活文化をよく残している作品です。

座席指定券(1,000円)のお申し込みは

■ウェブサイト <http://www.jfd.or.jp/iaf/eizo-area>

■一般財団法人全日本ろうあ連盟

TEL 03(3268)8847 FAX 03(3267)3445